

Impact of Smoking Status on Incident Hypertension in a Japanese Occupational Population

大和, いくみ

<https://hdl.handle.net/2324/7363652>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : © The Author(s) 2024.



(別紙様式2)

氏 名	大和 いくみ
論 文 名	Impact of Smoking Status on Incident Hypertension in a Japanese Occupational Population (日本人職域集団における喫煙が高血圧発症に及ぼす影響)
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 二宮 利治 副 査 九州大学 教授 鴨打 正浩 副 査 九州大学 教授 阿部 弘太郎

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

高血圧とタバコ喫煙はそれぞれ心血管疾患の独立したリスクとなるが、その関連については特に日本人において不明である。本研究では、日本人の男女労働者を対象に、喫煙の有無が高血圧の新規発症リスクに及ぼす影響を検討した。対象は2007～2018年に健康診断に参加した高血圧のない被験者5,439人を平均6年間追跡した。アウトカムは、高血圧の発症（血圧140/90mmHg以上または降圧薬の開始）とした。喫煙状況と高血圧発症との関連を評価するために、Cox比例ハザードモデルを用いた。

追跡期間中に1,395人（25.6%）が高血圧を発症した。高血圧の粗発生率（100人年あたり）は、現在非喫煙者（n=3,033）3.4、禁煙者（n=445）4.2、持続喫煙者（n=1,961）5.7であった。高血圧発症のハザード比（多変量調整後）は、現在の非喫煙者と比較して、持続喫煙者で1.34（95%信頼区間：1.20-1.50）、禁煙者で1.03（0.86-1.24）であった（傾向性P値<0.01）。層別解析では、高血圧の発症リスクは、調査開始時の血圧が低い、または糖尿病のない持続喫煙者は、現在の非喫煙者と比較して有意に高かった。禁煙による高血圧発症の有意なリスク低下は、調査開始時の血圧値が高いか、禁煙後に体重増加がない対象者で明らかであった。

喫煙は高血圧発症の独立した危険因子であった。禁煙は、持続的な喫煙に比べ、特に血圧値の高い被験者において、高血圧発症のリスクを減少させた。また、禁煙後に体重を維持することも高血圧発症の予防に役立つことが示唆された。

喫煙は高血圧発症の独立した危険因子であった。禁煙は、持続的な喫煙に比べ、特に血圧値の高い被験者において、高血圧発症のリスクを減少させた。また、禁煙後に体重を維持することも高血圧発症の予防に役立つことが示唆された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。